

(計画名)	琵琶湖東部区域都市開発区域建設計画
(策定主体)	滋 賀 県
<p>(地域の課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本県は、交通の利便性などを背景として、第2次産業に特化して発展してきた全国でも有数の内陸工業県であるが、高速交通基盤の整備が全国的に進む中で、<u>相対的な立地の優位性が低下</u>しつつあることや、県外に本社機能を持つ大企業の工業立地が多いことから、<u>景気の影響を強く受ける産業構造</u>となっている。 ○ 国土交通の要衝としての当該建設計画区域の優位性を活かすため、鉄道網、道路網の整備をはじめとする<u>広域的な交流機能を強化</u>することにより、<u>工業、商業、観光産業の振興</u>を図る必要がある。 ○ 環境問題は、地球規模という空間的な広がり、および次世代にわたる影響という時間的な広がりを持つものとなっており、<u>持続可能な社会の構築</u>が求められる中で、<u>環境と調和のとれた開発整備と琵琶湖を中心とする環境保全</u>の取り組みがより一層求められる。 <p>(計画の概要)</p> <p>(1) 持続可能な発展を続ける社会の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ <u>地域環境保全へのこだわりを基調</u>とし、自然と人間とがともに輝きながら持続可能な発展を続ける社会の構築を目標として開発・整備を進める。 <p>(2) 本県の特性を活かした新しい産業の振興</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 産学官が積極的に交流・連携を進める中で、びわこ文化公園都市等に集積された知的資源を融合させるとともに、創業予定者や経営革新を目指す企業者への支援を行い、環境、健康・福祉、観光、バイオ、ITといった<u>本県の特性を活かした独創的で新しい産業の育成</u>に取り組む。 ○ 産業構造の高度化、ソフト化に対応して引き続き利便性の高い地域づくりに努め、<u>中枢管理機能を持つ企業の立地</u>や<u>高次な商業・サービス機能等の育成</u>を図る。 <p>(3) 広域的な交流機能を強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 新しい産業や生活を支え、活力ある県土基盤を形成するため、近畿自動車道名古屋神戸線（第二名神高速道路）の整備の推進や、東海道新幹線新駅の設置等、<u>高速交通網の整備</u>を進める。 <p>(4) 琵琶湖の総合的な保全</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ <u>琵琶湖を21世紀における湖沼保全のモデル</u>として健全な姿で次世代に継承するため、「マザーレイク 21 計画－琵琶湖総合保全整備計画－」に基づき、<u>水質の保全、水源のかん養及び自然的環境・景観の保全</u>の3つの観点から、県民、事業者、行政等のパートナーシップに基づき<u>各種保全施策を総合的、計画的に推進</u>する。 	